

子どものいる世帯の生活状況に関する調査結果（速報概要）について

1. 調査の目的

本市におけるこども施策を総合的に推進するため、令和 7 年度から令和 11 年度までを計画期間とする「(仮称)新潟市こども計画」の策定にあたり、子どもの貧困に関する現状を分析し、課題を明らかにすることを目的に、市民を対象とした対象としたアンケート調査を実施。

2. 調査の概要

・子どものいる世帯の生活状況に関する調査（市民アンケート）

- 調査期間：令和 6 年 4 月 25 日 ～5 月 10 日
- 調査方法：協力依頼票郵送、web 回答式アンケート
- 調査対象：

種別	対象
一般世帯	小学 5 年生と中学 2 年生
	上記各学年児童の保護者
児童扶養手当受給世帯	児童扶養手当受給資格のある世帯の子ども
	上記児童の保護者

- 配布・回収：

種別		配付数	回収数	回収率
一般世帯	子ども	4,000 票	762 票	19.1%
	保護者	4,000 票	1,057 票	26.4%
児童扶養手当受給世帯	子ども	1,000 票	138 票	13.8%
	保護者	1,000 票	189 票	18.9%
合計		10,000 票	2,146 票	21.5%

※前回調査（R3）結果を併記しているが、前回調査（R3）の調査対象は以下の通りとなっている。

- 調査対象：

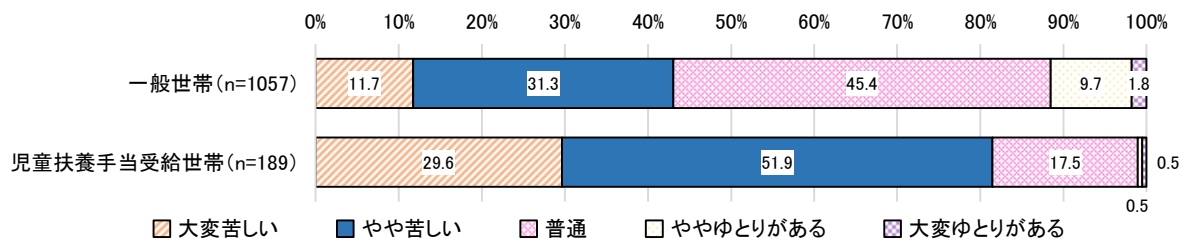
種別	対象
一般世帯	0 歳から 24 歳未満の子ども・若者がいる世帯の保護者または子ども
児童扶養手当受給世帯	児童扶養手当受給資格のある世帯の子ども
	児童扶養手当受給資格のある世帯の保護者

3. 調査結果の概要（抜粋）

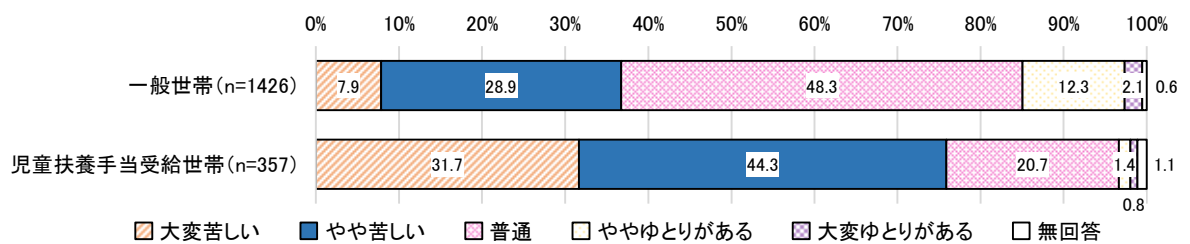
（1）経済的状況

■暮らしの状況【保護者】

児童扶養手当受給世帯では、約 8 割の世帯で現在の暮らしが「苦しい」と感じている。（「大変苦しい」+「やや苦しい」）

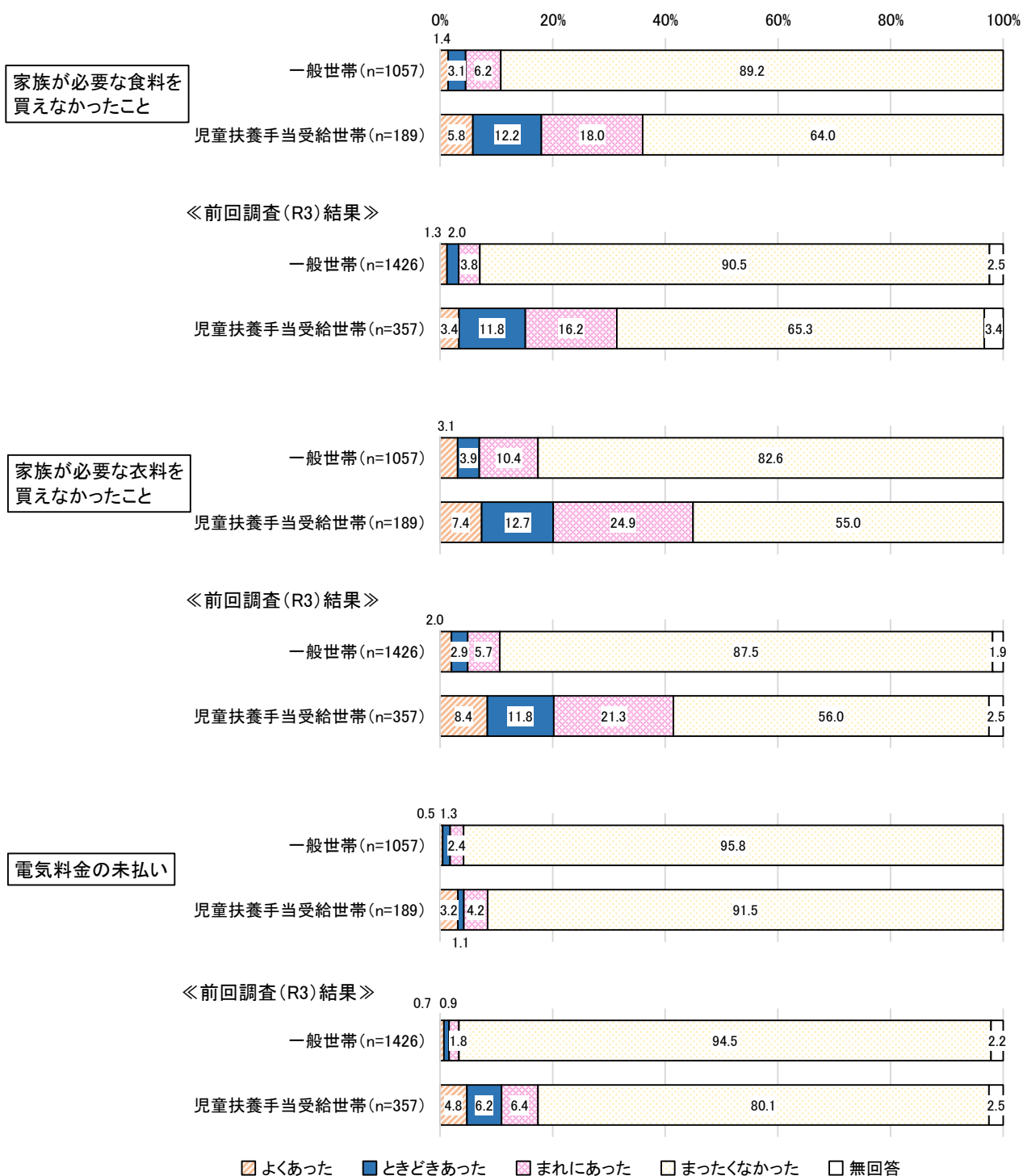


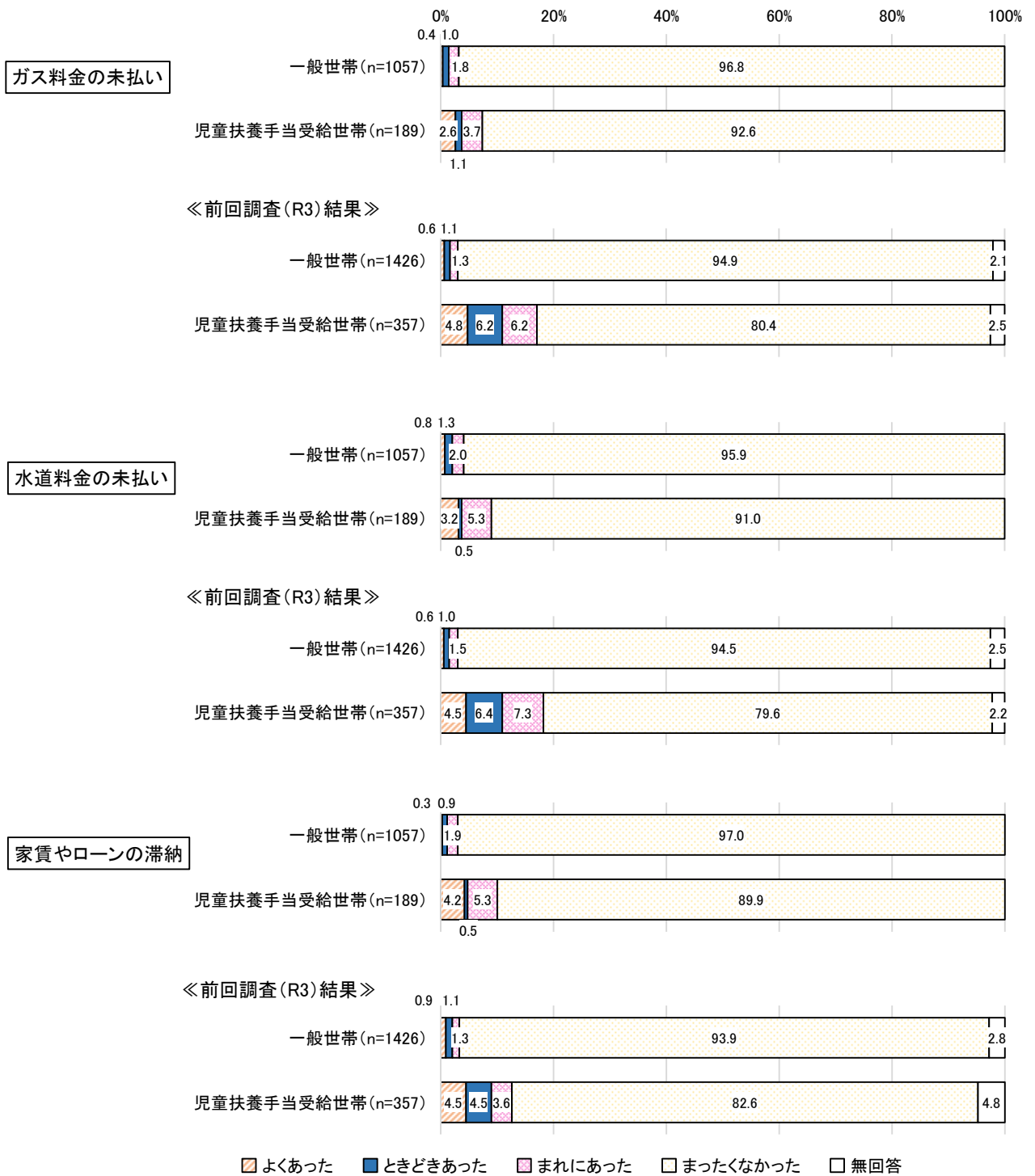
≪前回調査 (R3) 結果≫



■経済的な理由により買えなかった、支払えなかった経験の有無【保護者】

児童扶養手当受給世帯では、約 2 割の世帯で過去 1 年間に経済的な理由で「必要な食料や衣料を買えなかった」経験があった。（「よくあった」+「ときどきあった」）

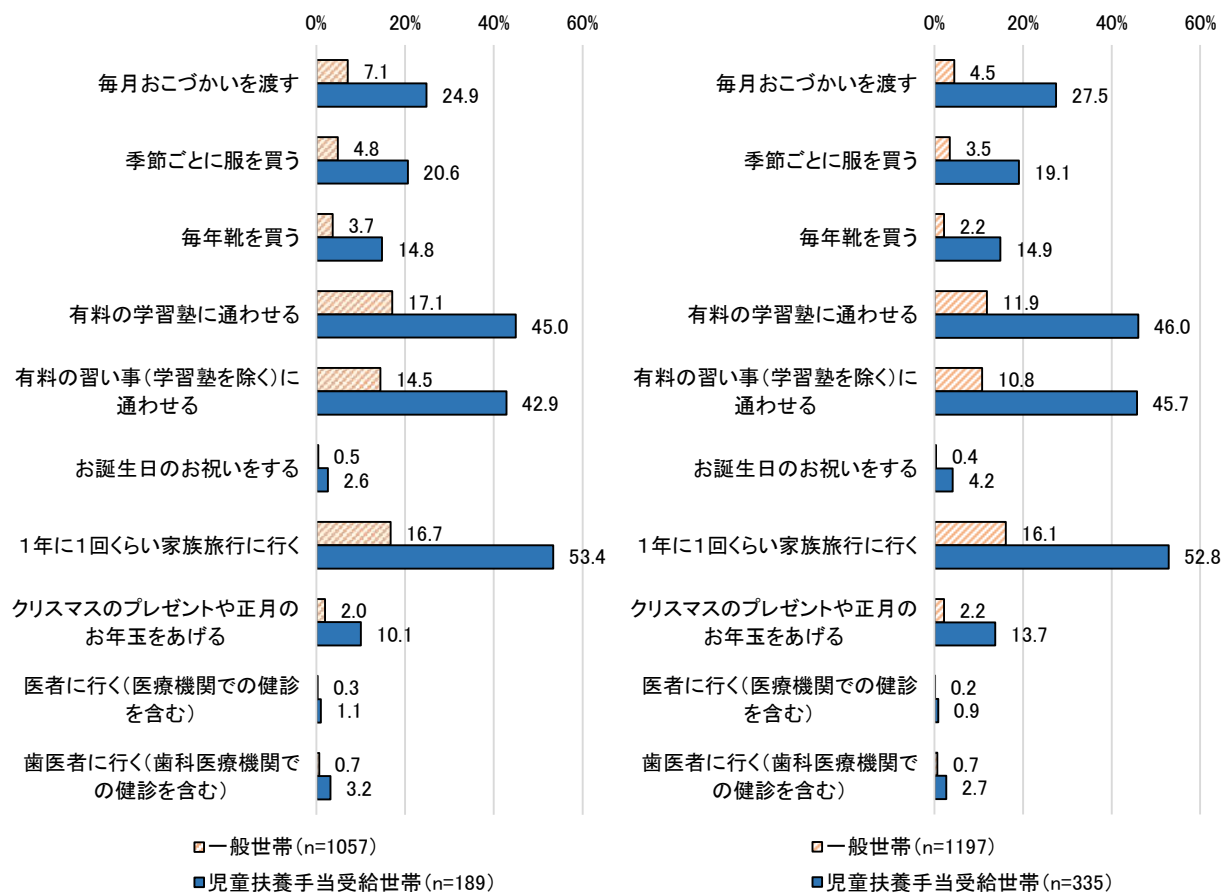




■経済的にできないこと【保護者】

児童扶養手当受給世帯の4割強が子どもに「有料の学習塾」や「有料の習い事」に通わせること、半数以上が子どもに「1年に1回くらい家族旅行に行く」ことについて、「経済的にできない」としている。

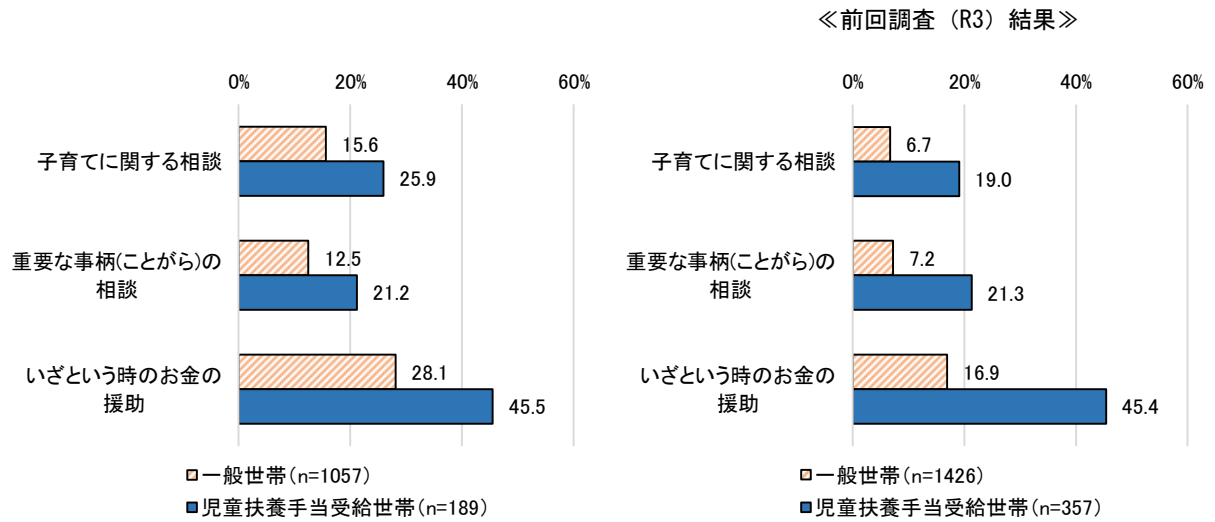
《前回調査 (R3) 結果》



(2) 保護者の状況

■困ったときに頼れる人がいない割合【保護者】

児童扶養手当受給世帯の 25.9%が「子育てに関する相談」、21.2%が「重要な事柄の相談」、45.5%が「いざという時のお金の援助」について「頼れる人がいない」としている。



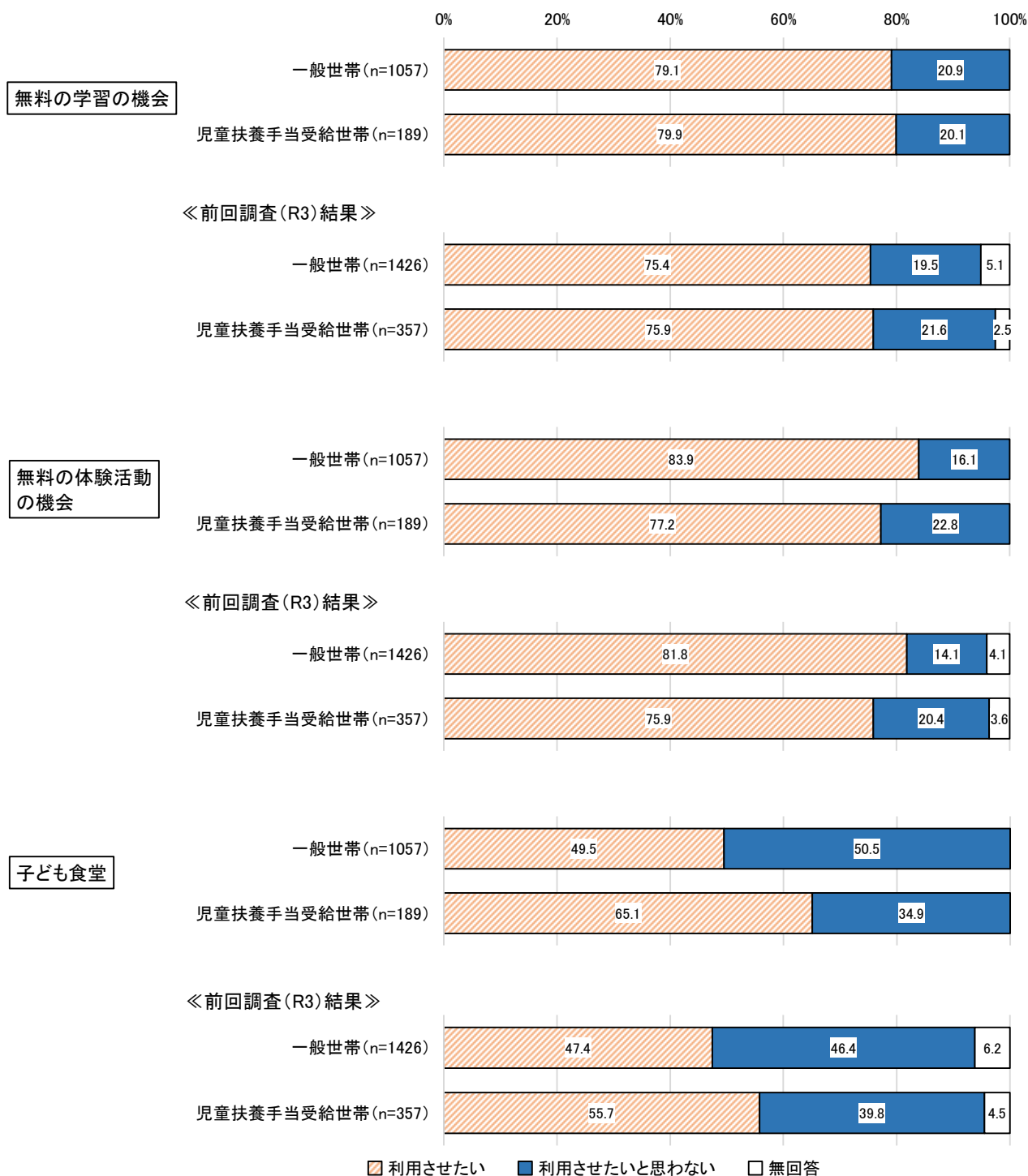
(3) 食事の状況

■子どもの居場所の利用意向【保護者】

「無料の学習の機会」について、一般世帯、児童扶養手当受給世帯の保護者ともに約 8 割が子どもに利用させたいと考えている。

「無料の体験活動の機会」について、一般世帯の保護者の 83.9%、児童扶養手当受給世帯の保護者の 77.2%が子どもに利用させたいと考えている。

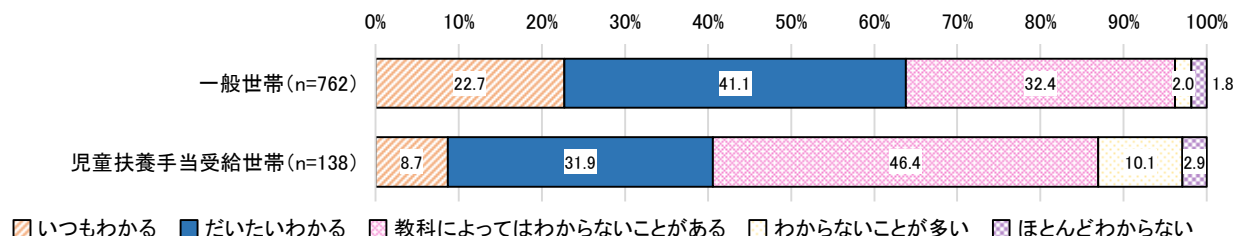
「子ども食堂」について、一般世帯の保護者の 49.5%、児童扶養手当受給世帯の保護者の 65.1%が子どもに利用させたいと考えている。



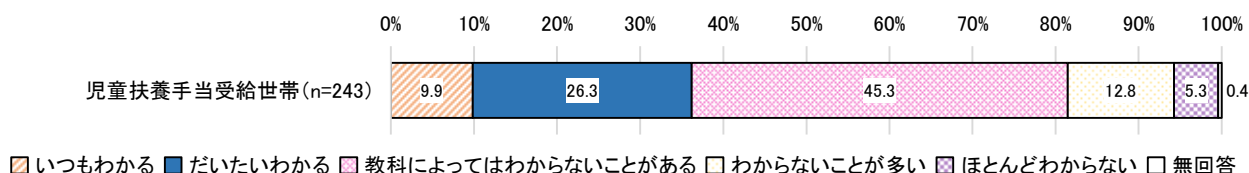
(4) 教育・進学

■学校の授業の理解度【子ども】

一般世帯の子どもで4割弱、児童扶養手当受給世帯の子どもで約6割が「授業がわからないことがある」としている。

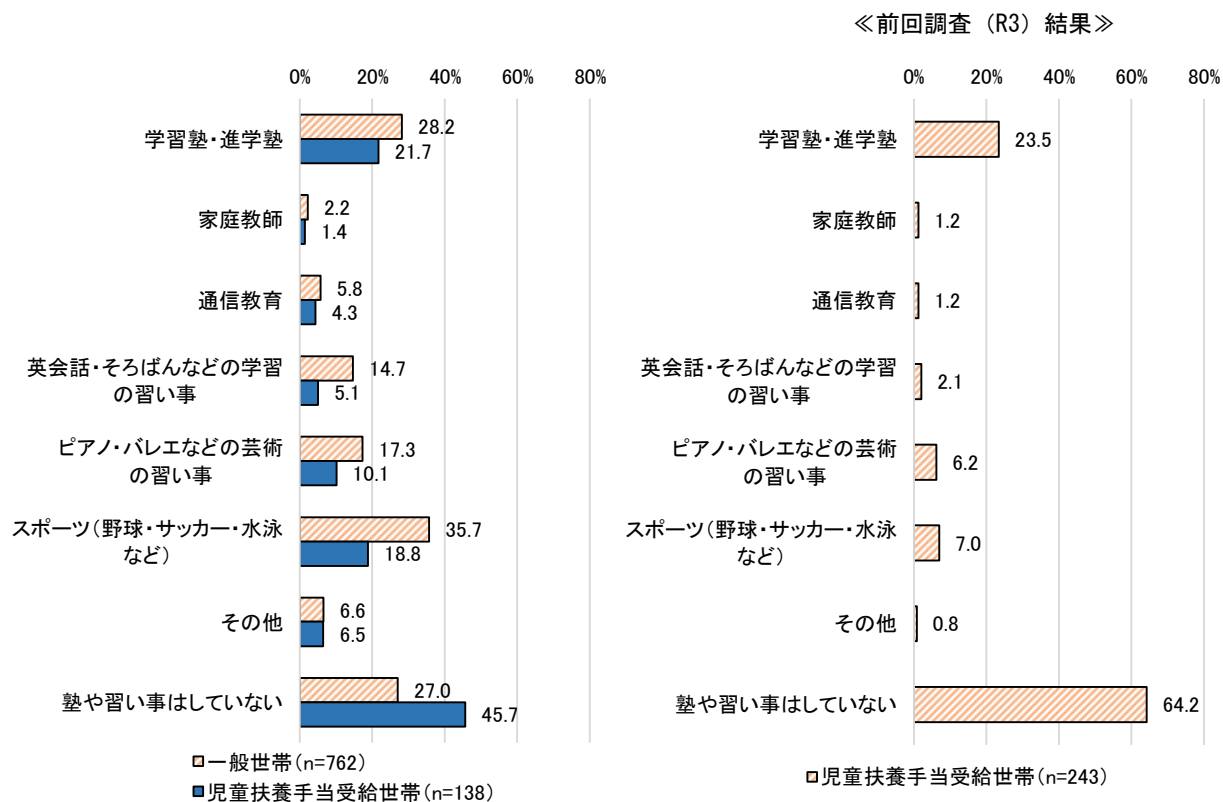


≪前回調査 (R3) 結果≫



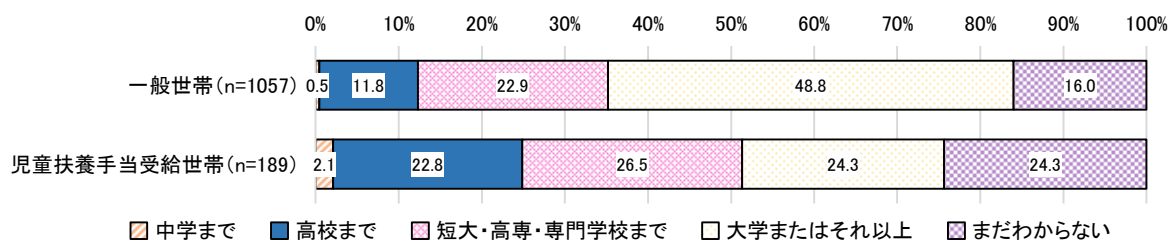
■塾や習い事【子ども】

塾や習い事をしていない割合は、一般世帯の子どもでは27.0%、児童扶養手当受給世帯の子どもでは45.7%であった。

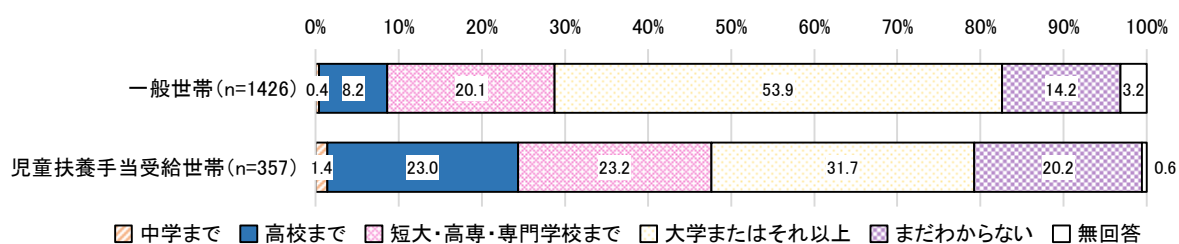


■保護者から見た子どもの現実的な進学【保護者】

「高校まで」の進学については、一般世帯で 11.8%、児童扶養手当受給世帯では 22.8%であった。
 「大学またはそれ以上」への進学については、一般世帯で 48.8%、児童扶養手当受給世帯では 24.3%であった。

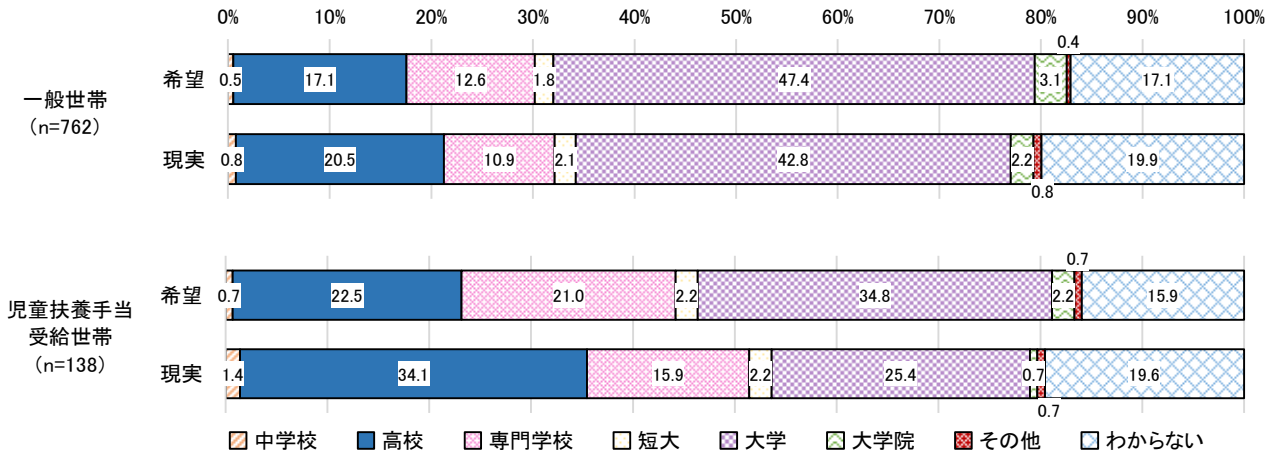


≪前回調査 (R3) 結果≫

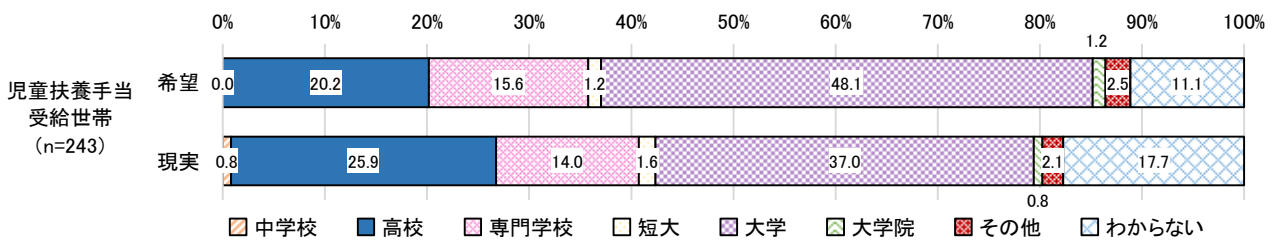


■進学の希望と現実【子ども】

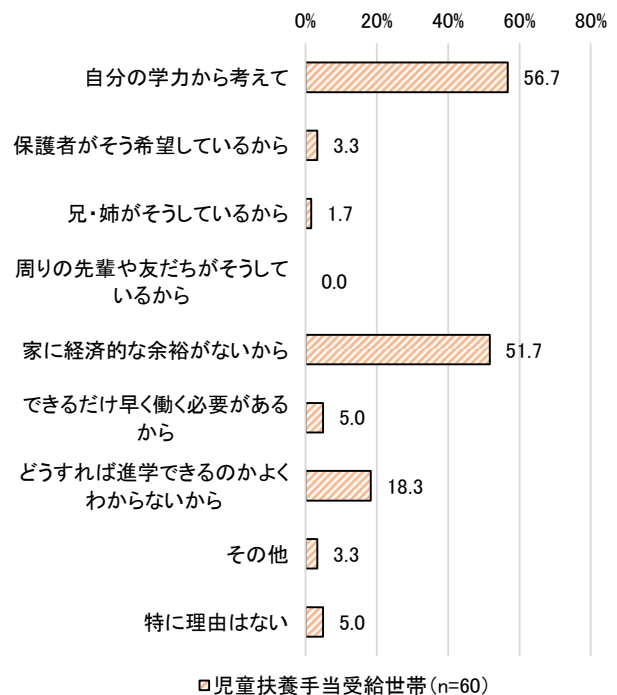
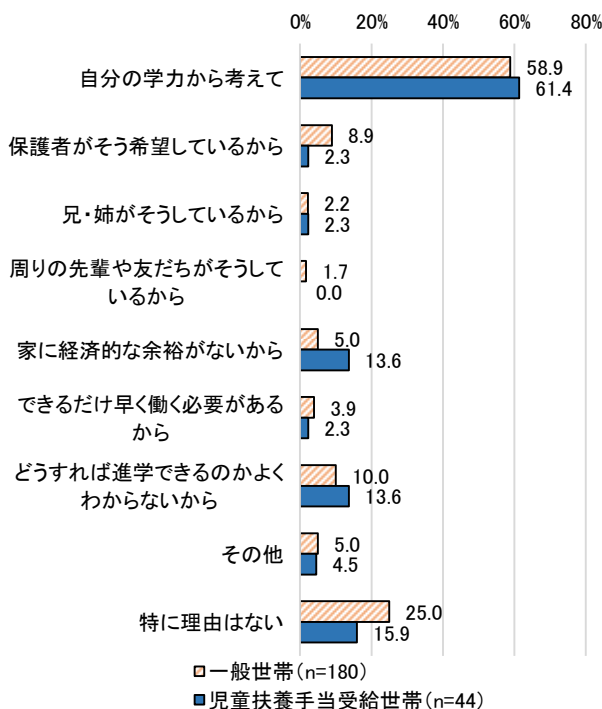
児童扶養手当受給世帯の子どもでは、「大学」への進学について、希望と現実が異なる状況がみられ、その理由については、61.4%が「自分の学力から考えて」、1割強が「家に経済的な余裕がないから」、「どうすれば進学できるのかよくわからないから」をあげている。



《前回調査 (R3) 結果》



《前回調査 (R3) 結果》

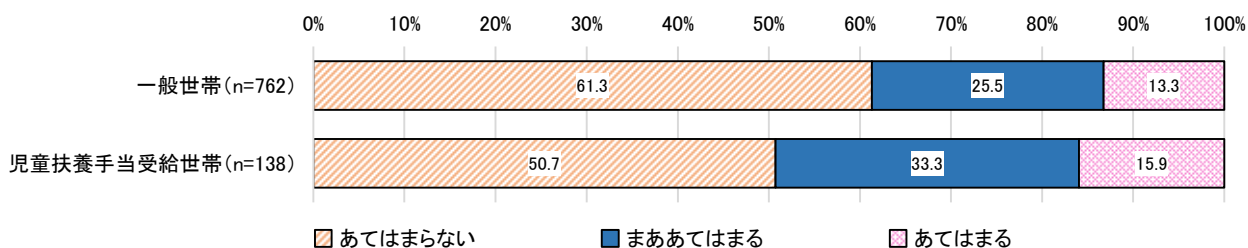


(5) 子どもの気持ち

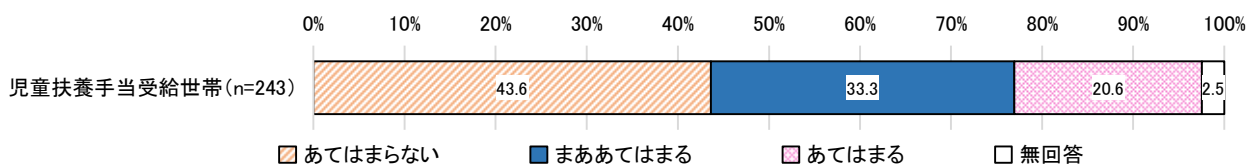
■子どもが感じてること【子ども】

児童扶養手当受給世帯の子どもでは、約半数が「私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。」、7割強が「私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。」に該当しており、一般世帯の子どもより10%以上割合が高くなっている。

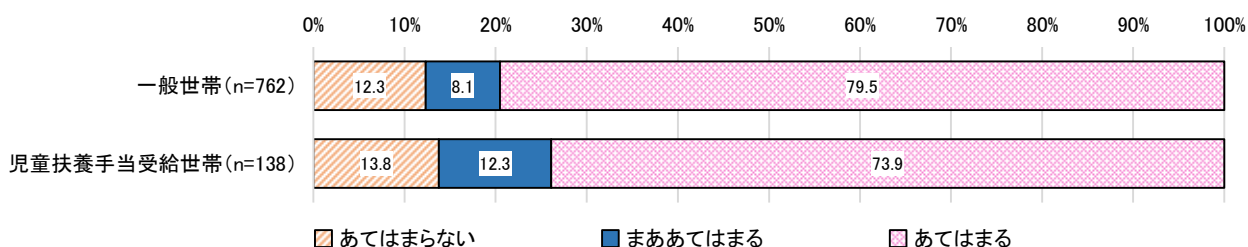
私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。



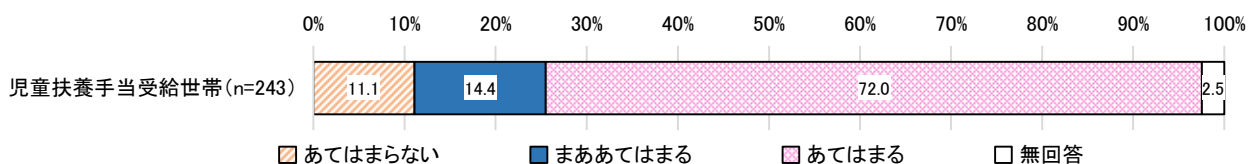
≪前回調査 (R3) 結果≫



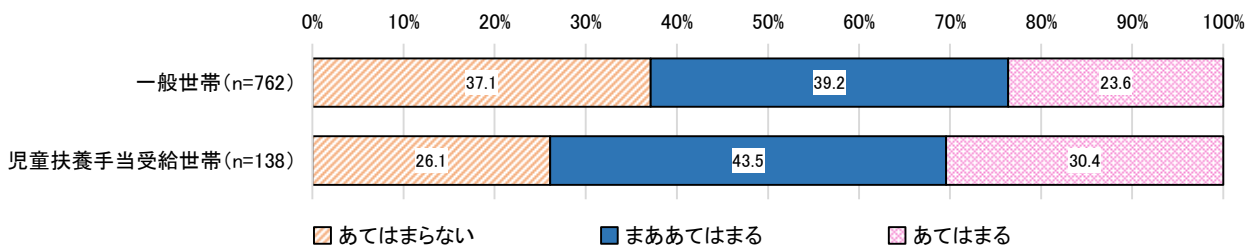
私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。



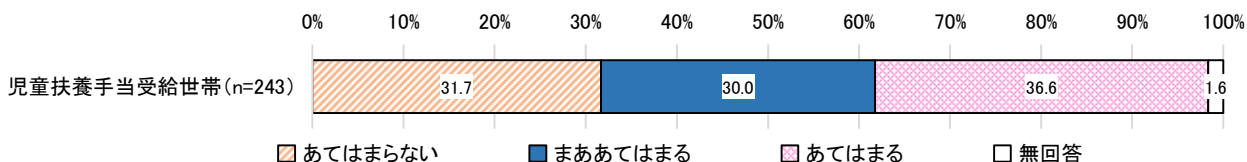
≪前回調査 (R3) 結果≫



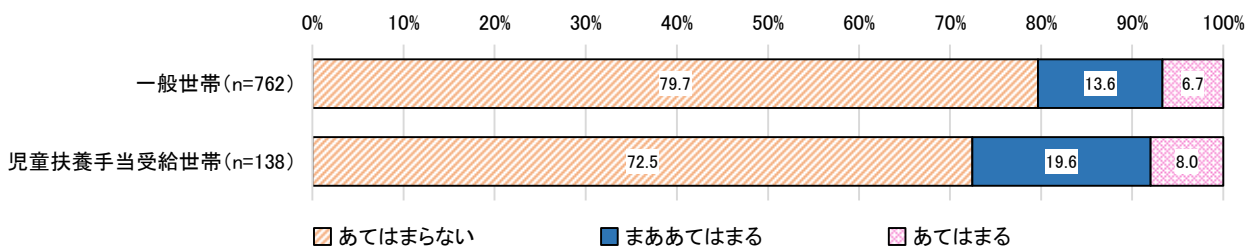
私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。



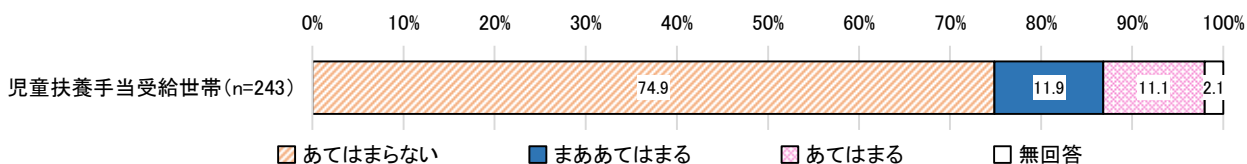
《前回調査 (R3) 結果》



私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。

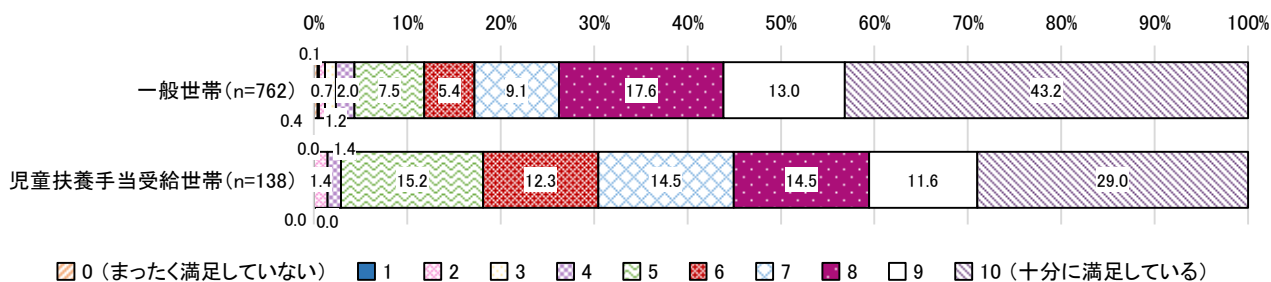


《前回調査 (R3) 結果》



■子どもの主観的幸福・生活満足度【子ども】

一般世帯の子どもの8割強、児童扶養手当受給世帯の子どもの約7割が最近の生活に高い満足度を感じている。(7~10に該当)



≪前回調査 (R3) 結果≫

